

平成22年度

農業振興公社ニュース

第10号

農商工連携や新商品・ 新技術の開発を支援する 事業を紹介します。

今回号は、県産業支援財団が実施している「みやざき農商工連携応援ファンド事業」と「ものづくり産業新事業展開支援事業」をご紹介します。2つの助成事業の概要は表1のとおりです。「みやざき農商工連携応援ファンド事業」は農畜産業者、水産業者あるいは林業者と、商工業者などが連携して事業に取り組むことが条件になります。一方、「ものづくり産業新事業展開支援事業」は、事業者が単独で申請できます。これまで年2回ほど公募があり、事業を要望される事業者は、1か月ほどある公募期間内に申請書を提出して応募していただきます。その後、財団において、事業計画に関して、申請された事業者から実際に発表を行うてもらおう審査会を経て、事業として採択されるかどうかが決まります。これまでに採択になった事業の例は表2と表3のとおり

です。いずれも、本県産の農畜水産物を活用した魅力ある新商品づくり、独自の生産技術の開発を目的としています。また更にレベルアップして、国の農商工連携の認定を得た取り組みも既に出ています。

表1 みやざき農商工連携応援ファンド事業及びものづくり産業新事業展開支援事業の概要(一部抜粋)

事業名	助成の対象	助成の内容
農商工連携新商品等開発促進事業	本県の農林水産物を活用した新商品・新サービスの開発、販路開拓の取組を支援	補助率2/3以内 助成額上限 3,333千円
農商工連携新生産技術等開発支援事業	農林水産物の生産や加工に必要な機械、装置、生産システム等の開発・研究などの取組を支援	補助率2/3以内 助成額上限 5,000千円
ものづくり産業新製品開発支援事業	バイオ産業等「宮崎県地域産業・活性化基本計画」にある産業の新製品・新技術等の開発を支援	補助率1/2以内 助成額上限 2,500千円

★当公社が
支援している取組事例★
西都市の、日本ブランドカパー(株)は植木や地被植物の栽培を、そして延岡市の(有)花菱精板工業は板金加工や金属製品の組立を本業とされています。この2社が「コケを利用する屋上及び壁面緑化の共同開発」というテーマで、昨年6月にみやざき農商工連携応援ファンドの採択を受けられました。現在、写真のように試作品がまわっています。「新農業支援課」



表3 ものづくり産業新事業展開支援事業が採択となった事例

区分	事業者	市町村	事業概要
新製品開発支援事業	農事組合法人 MJバイオ	都城市	しいたけの足を活用した食材の開発
	(有)クリエート	門川町	携帯端末を利用した肥育牛飼養衛生管理システムの開発
	合資会社 クリエイト65	西都市	農作業の省力化と生産性向上を図る補助具(ピーマンのつり下げ用具)の開発
販路開拓支援事業	美郷町農産加工事業振興協議会	美郷町	「FOODEX・JAPAN2010」への出展

表2 みやざき農商工連携応援ファンド事業が採択となった事例

区分	事業者	市町村	事業概要
新商品等開発促進事業	(株)オカザキ食品 小川地どり養鶏場	宮崎市 国富町	「むね肉」など売れ残りやすい鶏肉の部位を使ったソーセージ等の開発
	珈琲湧山、農業生産法人(株)アウル、なのはな村	都城市	青大豆と黒酢を使った、安全で美容・健康を目的としたスイーツ商品の開発
新生産技術等開発支援事業	福栄産業(株) 福山望(個人農家)	西都市 新富町	保温効果のある施設園芸用省エネルギー内張りカーテンの開発
	岡富織工(有) 北浦漁業協同組合	延岡市 延岡市	低価格で製造できるハモの骨切り自動化機械の開発

就農相談室

知っていますか？

公社の相談室、リニューアルされて1年ちよつと経ちました。

新しい部屋は入り口横で入りやすく、電話連絡などもその場でできますから、利便性もぐつと向上です。「さあ、入れ物はできた。後は中身、がんばれ！」といったところでしょうか。

一 相談者来られたら

まず、カードに記入いただき資料等を使いながら話し合います。対応はコーディネーターと専門相談員。お話しの内容をしつかり聞き、その方に最も適すると思われる処方箋を、迅速・的確に提示しようと、頭の引き出しを総動員します。もちろん相談後は関係機関と連携したフォロー活動が生じますので、受ける側のチームプレーも欠かせません。

二 就農ステップとシミュレーション

新規就農には長い道のりがあります。相談から農家、J・A、実践塾研修の第一ステップ。研修しながら経営ビジョンを決め、就農するまでの第二ステップ。そして経営を軌道に乗せ農村社会の中で生活を高めゆく第三ステップです。



これを相談者個々の人生タイムテーブルにシミュレーションしながら話し合います。その上で、進むか引き返すか家族で話し合せて貰い、時には難しい判断をお願いすることもあります。

三 相談の際によく出る話題

① 農地の確保は！

よく話題になりがちなテーマ。簡単ではないけど「市町村農業委員会やJ・Aなど、地元機関へ何度も働きかける事が大事です」と説明。そして、「希望する地域や面

積などを具体的に話すこともポイントのようです」と付け加えます。また、「研修先の農家がいるらと動いていただき、話がまとまったの噂もよく聞くので、お願いしてみても」とアドバイス。

② 機械・施設は！

新品ばかりでは高くなります。中古・リース品をいかに見つけ、確保するかも大事。その際、①と同じように本人の「行動力は幸運のきっかけになるかもしれないよ」と元気づけ。

③ 資金、労働力は！

起業は人、そしてお金。出来るだけの資金力動員をお願いしますが、家族の援助も少しあればと感じる方もおられます。そこで、「研修時にしつかり力を付け将来見据えた計画を家族に示し、資金、労力を家族ぐるみ、補完しあつては」と提案することもあります。

四 今後とも

農業・農村の高齢化、担い手不足が進行する中、1人でも多く宮崎に新規就農者を増やす施策は重要です。同じように就農したご家族からも農業を選んで良かった、宮崎に来て良かったと思つてもらふこともまた大事でしょう。新しい力、元気な笑い声が増え続けるよう、今後とも心がけてまいります。

す。

相談室、一度覗いてみて下さい。

新規就農相談会を開催しました



★宮崎県職員健康プラザにて★

毎年秋に開催している宮崎県新規就農相談会を、今年度も10月24日(日)に宮崎市で開催しました。当日はあいにくの大雨にもかかわらず、県内はもとより遠くは岐阜や福岡等から53名の方々が来場されました。コーナーは、総合相談、J・A研修、農業法人等を設置。相談者は研修受入内容や資金、農業法人の求人等について担当者から直接話が聞けました。その結果、研修先の視察や農業法人での面接、体験等が決まった方もおり、この相談会をきっかけに就農に向けて次のステップへ進み始めています。

「担い手支援課」

「再建に向けて 新たな挑戦」

酪農経営

児湯郡新富町新田

本部 昇さん(60)

本部さんは、家族4人で酪農業を営んでおられますが、4月に宮崎県を襲った口蹄疫により、一二頭の乳牛全てが殺処分されました。本部さんは、後継者である博久さん(33)と共に規模拡大を目指すべく、当公社の畜産担い手育成総合整備事業を活用され、本年3月より新たに80頭規模の乳牛舎(一〇三九・五㎡)、搾乳舎(三九六・〇㎡)、堆肥舎(四九七・〇㎡)等の増設を開始した矢先でありました。口蹄疫の発生で工事も完全に中断され、その終息も中々見えない中、果たして経営存続が出来るかどうか不安の毎日を過ごされていましたが、「折角これまで苦勞して現在の規模まで拡大し、また後継者までいるのだからここで酪農を諦める訳にはいかない。牛との生活を一生続ける」と、経営存続と再建を決意されました。口蹄疫の終息宣言を受け、畜舎工事も八月下旬から再開し、11月末には新しい牛舎等が全て完成しました。乳牛の導入も着々と進んで

おり、復興に向けて再出発されたところですが、

今後、更にご苦勞はあるとは思いますが、新しい施設の活用により一日でも早く経営が安定し、地域リーダーとしても活躍されることを期待しております。

【畜産施設課】



経営体育成基盤整備事業

「浦之名地区」竣工式開催

県が平成一三年度から整備を進めていた経営体育成基盤整備事業「浦之名地区」(宮崎市高岡町)が平成二十二年度をもって完了したことを受け、水士里ネット高岡(旧浦之名土地改良区山元幸男理事長)と、宮崎県中部農林振興局との共催により、去る十月二二日午前十時より、関係者約100名出席の下、竣工記念式典が開催されました。

まず田之平公民館敷地内に建立された竣工記念碑の除幕式が行われました。除幕式は仏式による作法で、当地区ゆかりの本永寺住職黒木浩順上人により執り行われ、山元理事長他関係者により除幕並びに献酒が行われました。

その後、隣接の式典会場において、事業主体である宮崎県中部農林振興局主催による竣工記念式典が行われ、小八重中部農林振興局長の式辞に続き、東農地整備課長より事業の概要と経過報告が行われました。

農業振興公社は、平成一四年度と一五年度の区画整理工事に携わりましたが、工事期間中は地元土地改良区や中部農林振興局・宮崎

市を始め関係機関の御指導・御協力により、工事を無事完遂することができました。

浦之名地区の皆様方が、整備されました大区画の農地で収益性の高い営農が展開され、当地区がますます発展されることをお祈りいたします。

【地区の概要】

- 受益面積 39,4ha
- 道路工 4,276m
- 用水路工 9,762m
- 排水路工 6,868m
- 工期 平成13年度～平成22年度
- 事業費 882百万円

【農地課】



竣工記念碑前での献酒(左が浩順上人)

親子2代「農地保有合理化事業」
を活用し規模拡大

岩屋ヶ野 重春・務

息子の務さんは、高校卒業後6年間は会社に就職したが物足りなさを感じ、就農したいと考え、父重春さんに相談し一緒に農業をやることを決断されました。

現在、岩屋ヶ野さん親子は、約16haの経営農地をフルに活用し、作付面積は年間約20haで都城地区の個人農家としては、ダントツの規模です。

経営作物としては、露地野菜を中心に加工用馬鈴薯8、5ha、ゴボウ3、2ha、人参2ha、里芋2ha、水稲2、5haなどの作物を作付けて収穫時期が重ならないようバランス良く経営されています。



さといもの収穫風景

鳥獣害対策として、近年は山間に近い農地で農作物を荒らす猿も手をつけられない胡麻の栽培にも取り組んでいるそうです。

また、大規模経営農地をフルに活用するため、大型機械を導入するとともに、3、4名の常時雇用者を効率良く配置して無駄のない年間作業計画を立てているとか。

農地保有合理化事業については、平成一五年から5回程活用され、これまでに6、7haの農地を集積しておられます。貸借事業についても興味を持たれており、今後活用を検討したいとのこと。



根菜類収穫機 (作業のスピード化が図られた)

務さんは3人の子宝に恵まれ、特に小学校2年生になる長男は、何も言わずとも自分の意思で手伝いをされるそうで、将来の後継者として大変楽しみにされています。

【農地課】

農業振興公社監事による
中間監査の実施

平成22年11月16日から17日にかけて、公社監事による中間監査が実施された。

監査では、予算の執行状況に加え、直接現場に向き農地課、担い手支援課、畜産施設課及び新農業支援課の各事業に係る現場確認が行われた。

（写真は、口蹄疫に係る埋却地（農地課：農地保有合理化事業）の説明を受ける監事（右））

【総務課】



《12月～2月の主な行事》

- 1/22(土) 新農業人フェア(東京)
- 1月下旬 みやざき農業実践塾体験講座(農大実践塾)
- 2月下旬 新・農業人セミナー(宮崎市)



発行 宮崎県農業振興公社
宮崎市恒久一丁目七番地十四
TEL(0985)5112011
FAX(0985)5118006
HP <http://www.mak.or.jp>